

# 市民アンケート調査結果概要 (修正版)

# 市民アンケート調査結果概要

## 1 調査概要

### 調査の目的

- 泉佐野市が取り組んでいる『便利で持続可能な地域公共交通サービスの実現』について、市民の皆様が日ごろ、**公共交通サービスをどのようにご利用されているのか**、また**現在の公共交通サービスに対するご意見やご意向**を把握するために実施したものです。

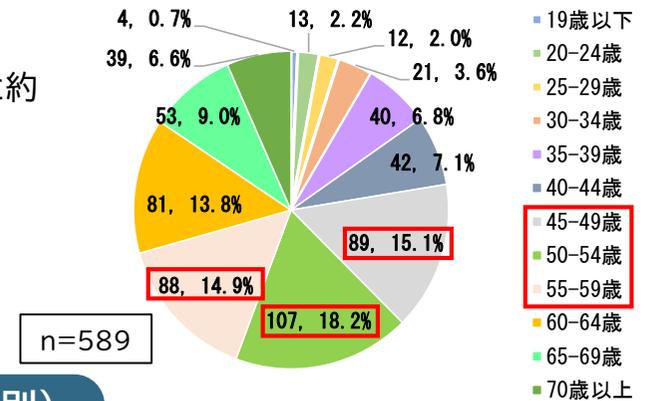
### 調査方法及び回収状況

対象地域	泉佐野市内全域
調査方法	Web調査
調査期間	令和5年11月24日～12月7日
調査対象数	泉佐野市在住として登録の4,566名
有効回答数	589票(市民以外も含めた回答数612)
回収率	<p>12.9%【全市民に対する必要標本数は380】</p> <p>・令和2年の国勢調査を母集団とし、95%の信頼度、標準偏差5%の標準的なサンプリングで計算。</p> $n \geq \frac{N}{\frac{e^2(N-1)}{Z^2P(1-P)} + 1}$ <p>(必要な標本数n、母集団の大きさN、最大誤差e、信頼率に対応する正規分布点Z、予想される母集団の比率P)</p>

## 2 回答者属性

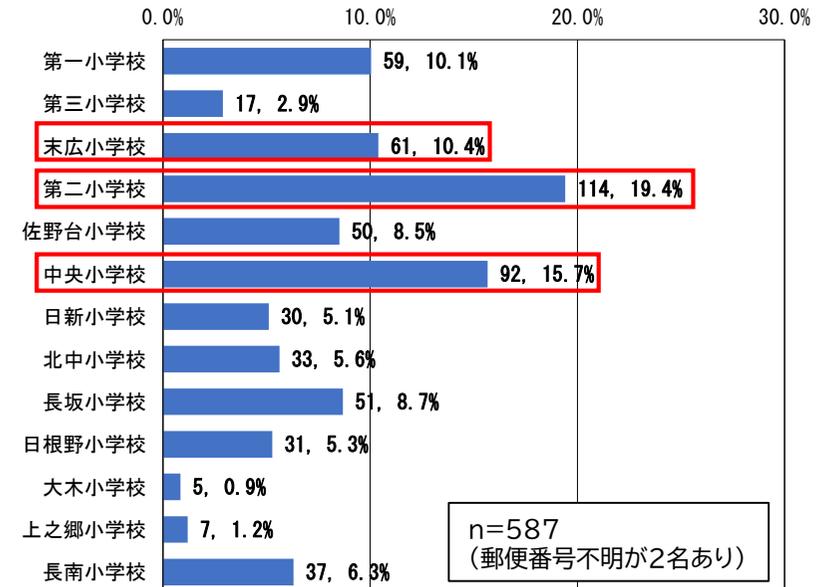
### 年代

- 45-59歳が48.2%と約半数を占めています。



### 居住地域(小学校区別)

- 「第二小学校」が最も多く19.4%、次いで「中央小学校」が15.7%、「末広小学校」が10.4%となっています。



※回答者が登録している郵便番号から小学校区別の人数を集計  
 ※1つの町が複数の小学校区にまたがる場合は、人数を校区数で按分し、端数は回答者数が少ない小学校にまとめて整数化

# 市民アンケート調査結果概要

## 3 日常の移動について

### 目的別の主な移動手段

日常生活において、「通勤・通学」、「買物」、「通院・デイサービス」、「娯楽・レジャー（趣味・習い事・社交等）」の主な移動手段についてお答えください。

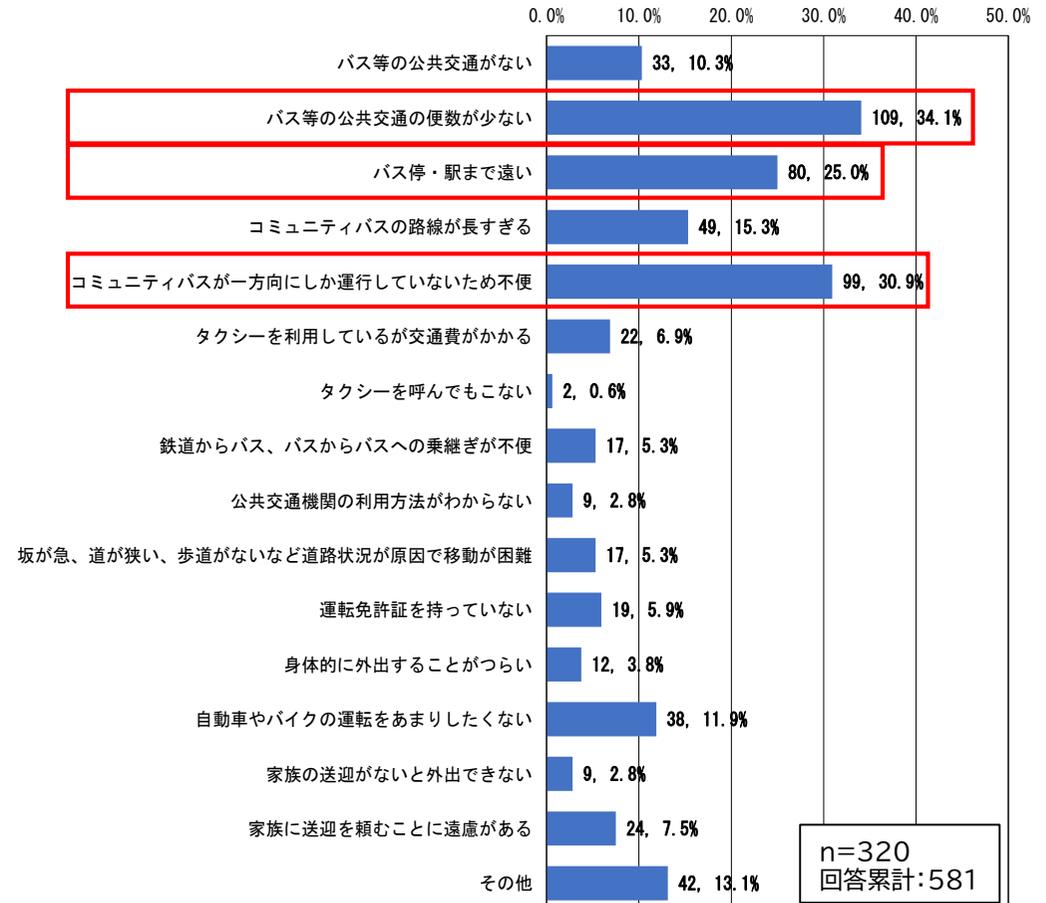
- どの移動目的も「自動車(運転)」が最も多く、「買物(61.0%)」「通院・デイサービス(50.3%)」「娯楽・レジャー(58.9%)」では半数を超えています。
- また、「買い物」、「通院・デイサービス」、「娯楽・レジャー」については、「自動車(送迎)」の利用も一定の割合があります。
- なお、公共交通機関のうち、「**路線バス**」「**いずみさのコミュニティバス**」「**いずみさの観光周遊バス**」のバス利用は**わずか**であり、最も多かったものは「通院・デイサービス」の「いずみさのコミュニティバス(3.0%)」となっています。

目的	1位	2位	3位	4位	5位
通勤 通学 n=464	自動車 (運転) 37.1%	南海 電鉄 26.9%	自転車 14.4%	JR 10.3%	徒歩 5.4%
買物 n=575	自動車 (運転) 61.0%	自転車 17.4%	徒歩 11.7%	自動車 (送迎) 3.3%	バイク 3.1%
通院 ・デ イサ ービ ス n=199	自動車 (運転) 50.3%	自転車 14.1%	徒歩 12.6%	自動車 (送迎) 7.0%	南海 電鉄 4.5%
娯楽 ・レ ジャ ー n=438	自動車 (運転) 58.9%	南海 電鉄 12.1%	自転車 8.4%	徒歩 6.4%	自動車 (送迎) 5.3%

### 不自由や不安を感じている理由

日常の移動に関して不自由や不安を感じている理由を教えてください。

- 「バス等の公共交通の便数が少ない」が最も多く34.1%、次いで「コミュニティバスが一方向にしか運行していないため不便」が30.9%、「バス停・駅まで遠い」が25.0%となっています。



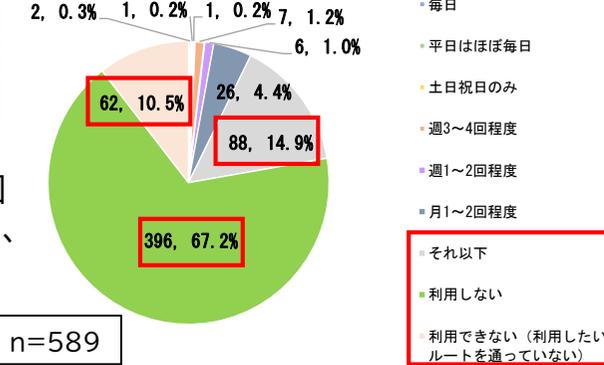
# 市民アンケート調査結果概要

## 4 泉佐野市のコミュニティバスについて

### コミュニティバスの利用頻度

泉佐野市が現在運行するコミュニティバスの利用頻度についてお答えください。

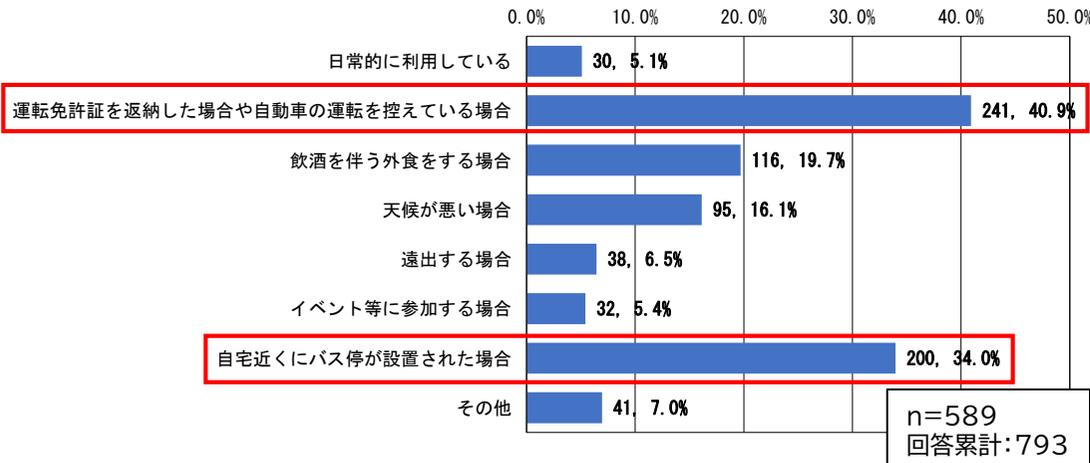
- 「利用しない」が最も多く67.2%で、次いで月1~2回未満の「それ以下」が14.9%、「利用できない(利用したいルートを通っていない)」が10.5%となっています。



### コミュニティバスの利用機会

どのような場合に、泉佐野市のコミュニティバスを利用するかお答えください。

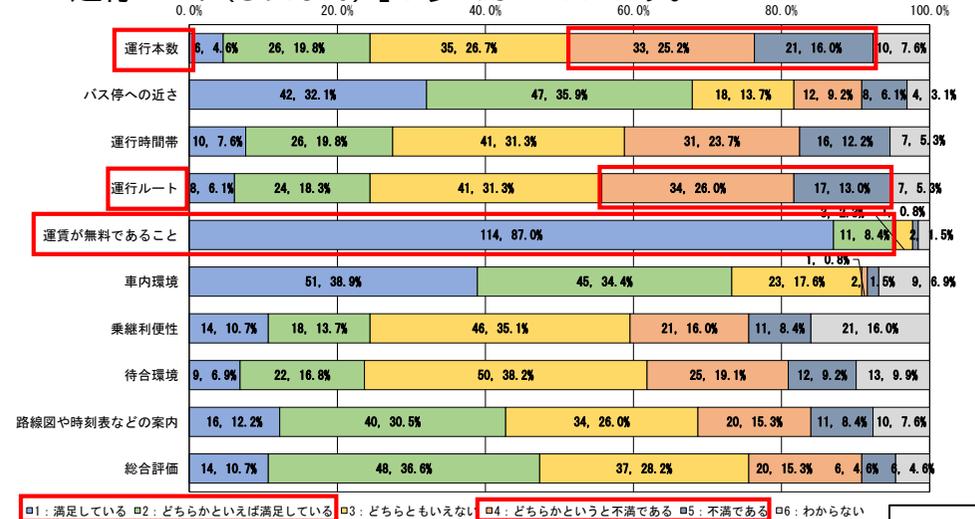
- 「運転免許証を返納した場合や自動車の運転を控えている場合」が最も多く40.9%、次いで「自宅近くにバス停が設置された場合」が34.0%、「飲酒を伴う外食をする場合」が19.7%となっています。



### コミュニティバスの満足度

現在のコミュニティバスサービスに対する満足度を1(満足している)~6(わからない)のうちから一つ選んでお答えください。

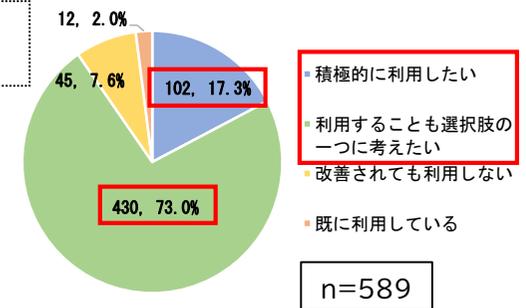
- 肯定的な意見の合計は、「運賃が無料であること(95.4%)」が最も多く、一方、否定的な意見の合計は、「運行本数(41.2%)」、「運行ルート(39.0%)」が多くなっています。



### 不満に感じている点が改善された場合の利用意向

不満に感じている点が改善された場合の利用意向についてお答えください。

- 「利用することも選択肢の一つに考えたい」が最も多く73.0%、次いで「積極的に利用したい」が17.3%と、改善された場合に利用を考えている回答が9割を超えています。



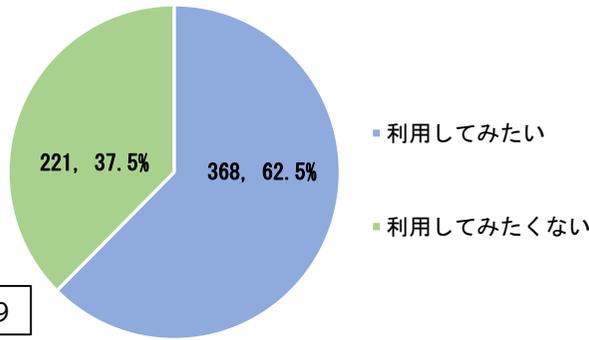
# 市民アンケート調査結果概要

## 5 新たな交通モードについて ※サービスの一例としてデマンド交通導入を仮定して設問

### 利用意向

泉佐野市内でデマンド交通サービスが導入された場合の利用意向をお答えください。

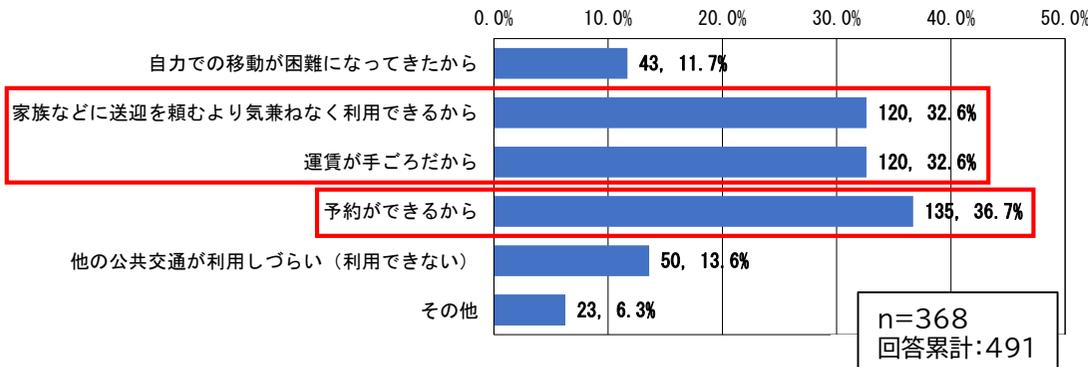
- 「利用してみたい」が62.5%で、6割を超えています。



### 肯定的な利用意向の理由

デマンド交通サービスを利用してみたい理由をお答えください。

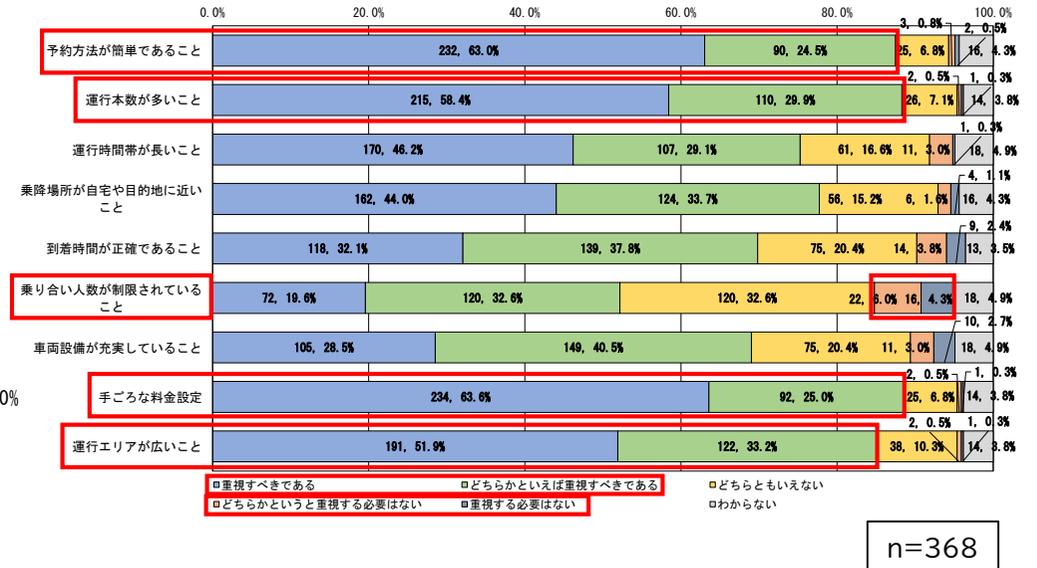
- 「予約ができるから」が最も多く36.7%、次いで「家族などに送迎を頼むより気兼ねなく利用できるから」と「運賃が手ごろだから」が同率で32.6%となっています。



### デマンド交通サービス導入時の重視点

本市でデマンド交通サービスを導入するにあたっては、どのような点を重視して検討したらよいと思いますか。

- 重視すべき点としては、「手ごろな料金設定(88.6%)」、「運行本数が多いこと(88.3%)」、「予約方法が簡単であること(87.5%)」、「運行エリアが広いこと(85.1%)」が挙げられました。
- 一方、「乗り合い人数が制限されていること」についてはあまり重視していない傾向にありました。



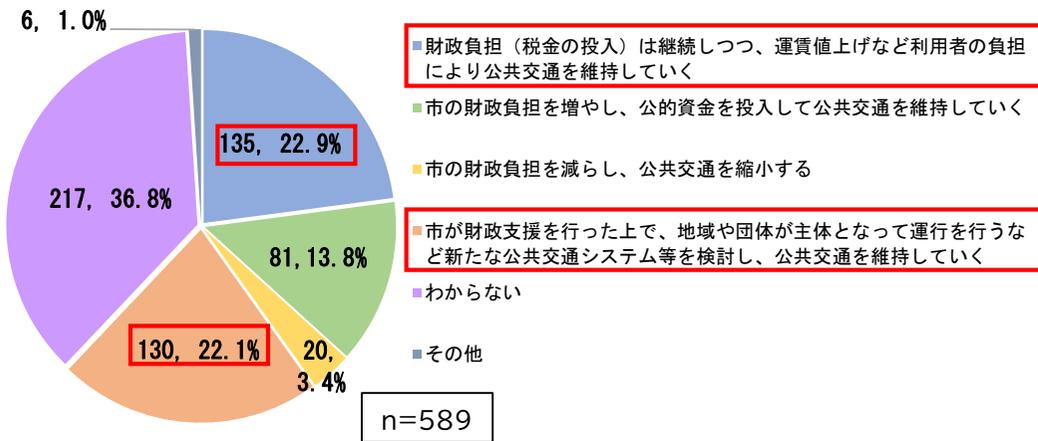
# 市民アンケート調査結果概要

## 6 公共交通のあり方について

今後も限られた予算の中で公共交通を維持していくにあたり、どのような方向性が望ましいと思いますか。

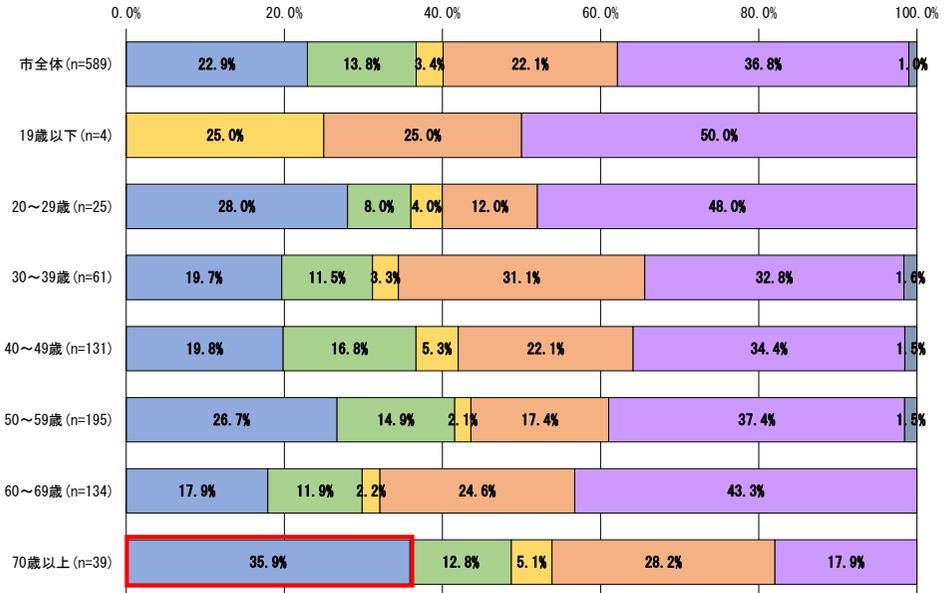
### 単純集計結果

- 「財政負担(税金の投入)は継続しつつ、運賃値上げなど利用者の負担により公共交通を維持していく(22.9%)」、「市が財政支援を行った上で、地域や団体が主体となって運行を行うなど新たな公共交通システム等を検討し、公共交通を維持していく(22.1%)」の意向が高い結果でした。
- その一方で、「わからない」という回答も多くみられました。
- 公共交通の維持にあたり、「利用者負担」の許容や「地域が主体となった新たな公共交通」の検討に肯定的な意見がみられます。



### クロス集計結果(年齢区分)

- 70歳以上で「財政負担(税金の投入)は継続しつつ、運賃値上げなど利用者の負担により公共交通を維持していく(35.9%)」の回答が多く、**公共交通の維持が高齢者にとって身近な問題であり、利用者の負担が増えても公共交通を維持していくことが求められている**ことが分かります。



■ 財政負担(税金の投入)は継続しつつ、運賃値上げなど利用者の負担により公共交通を維持していく  
 ■ 市の財政負担を増やし、公的資金を投入して公共交通を維持していく  
 ■ 市の財政負担を減らし、公共交通を縮小する  
 ■ 市が財政支援を行った上で、地域や団体が主体となって運行を行うなど新たな公共交通システム等を検討し、公共交通を維持していく  
 ■ わからない  
 ■ その他